

循環器内科

1) 後期研修の特徴

- 日本循環器病学会の認定研修施設である。
- 日本インターベンション学会の認定教育施設である。
- 5名の循環器専門医の指導を受けられる。
- 京都大学名誉教授である河合忠一先生が顧問を勤められており、いつでも直接の指導を受けられる。
- 循環器内科は歴史が古く、長い間地域の中核病院として認知されている。救急医療、重症患者の全身管理、リハビリから社会復帰まで豊富な症例を経験できる。
- 主な入院患者は虚血性心疾患、心不全、閉塞性動脈硬化症、心筋症、心筋炎など多岐に渡る。さまざまな循環器疾患を豊富に経験できる。
- パラメディカルは経験豊富で充実している。64列マルチスライス CT や高性能 MRI など医療機器は常に最新最高のものへ更新され、研修に十分な人的、設備的資源がある。

2) GIO

- 一般内科全般の総合的臨床能力を基礎とした上で循環器内科特有の診断、検査、手技、治療法を習得する。

3) SBOs

- 適切なチーム医療、医療連携を実践することができる。
- 指導医の指導の下に循環器疾患患者の最終診療責任者になることができる。
- 検査所見から、疾患に対する循環器的な問題点を適切に理解、要約できる。
- 画像検査所見についてコメントできる。
- 患者に必要な検査を適切に選択施行できて、その結果解釈、治療法の選択ができる。
- 最低心エコーについては単独施行、病態を反映した正しい所見が作成できる。
- 他科からのコンサルテーションに対し、適切に対応できる。
- 救急患者について、病態の把握、急性期治療が正しく行える。

4) Ls

- **On the job training** が主体である。
- 初期研修医の指導を行う。
- 学術活動
 - 論文執筆：症例報告、臨床研究、依頼原稿などを執筆する。
 - 学会発表：循環器学会地方会などで発表する。

<前期内科系コース>

- 1年次：関連各科のローテートが望ましいが、循環器内科専属も可能。

<後期内科系コース>

- 1年次：主治医として10名程度の患者を受け持つ。
- 2年次：10名程度の患者を受け持った上で、心エコー、心臓カテーテル検査の一部など循環器特有の検査法を会得する。外来、救急を担当する。
- 主治医として10名程度の患者を受け持つ一方、後期内科系コース1, 2年次の指導、初期研修医の指導等を行う。

5) Ev

- 実地での実技、カンファレンス等で評価を受ける。

6) 大学医局との関連

- 京都大学循環病態学講座
- 大阪医科大学

7) 将来の進路

- 選考により、武田病院グループの病院でスタッフとして勤務ができる。
- 大学院進学